美郷町まちづくりパネルディスカッション
より魅力的な町として進化するために

美郷町の風土、魅力および観光資源等を広く内外へ情報発信いただいている美郷大使の任期更新を記念し、4月23日に美郷町公民館で美郷町まちづくりパネルディスカッションが開催されました。町田睿大使、佐々木毅大使、永田萠大使の3大使が参加し、「より魅力的な町として進化するために」のテーマで行われたパネルディスカッションでは、美郷町の現状や将来像、若者たちへのメッセージなど、さまざまなことについて語られました。どのような内容であったか、その一部を紹介します（一部抜粋および編集）

美郷町の魅力、個性とはなにか あるいは今後磨くべき個性、分野について

町田大使

美郷町の魅力は、皆さまもお分かりのような、豊かな自然といいますか、豊富な水とお米など、田園都市の魅力を十分に持っているということだと思います。

真昼山のふもとにありまして、奥羽山脈の恵みを抱いている素晴らしい土地だと思いますが、私はそれ以外にも歴史と文化、東北の大きな歴史の中で何度も出てくる、魅力ある町ではないかと思います。これはなにも美郷町だけではありませんが、この周辺の町、古く言えばアテルイと坂上田村麻呂、そして公民館の緞帳（どんちょう）にもありますような清原一族の争いでありますとか、あるいはその後の藤原三代ですとか、非常に大きな、いわば日本の古代史のロマンが輝いた土地である。そういう素晴らしい魅力をもう一度反芻（はんすう）してみることが大事じゃないかと思っています。

永田大使

私はよそから来て、もともとご縁の無かった美郷町が、なぜこれほど好きかということを考えますと、やはり自然の美しさ、これは絶対にはずせません。何回も訪れているはずなのに、桜の花が真っ盛りでまだ花びら一枚も散っていない春の日に伺ったのは今日が初めてです。秋の美しさも、夏の美しさも、竹うちにも参ります。冬の厳しい自然のモノトーンの美しさも良く知っていますが、この春爛漫の美郷町の美しさはまさに、感嘆の一言です。花の絵を描く私にしてみれば大好きな、永遠のテーマと言っていい春の花です。

ではそういったものを今住んでいる京都で見る事ができるかというと、ほとんどがプランターの中の花です。皆さんにとって周りに自然の花が咲いているというのは当たり前のことと思っているかもしれませんが、実は全然当たり前のことじゃないです。この美しさ、自然の恵みという天然の美しさに加えて、人の暮らしの営みから紡ぎだされる自然の風景。これがまさに私が感嘆すべきことなのです。やはりそれは平和の象徴というか、物質ではない心の豊かさの象徴のように思います。

人は不幸ですと花を育てようとは思いません。花も目に入らないものです。全ての美しさは心の豊かさがもたらすものだと、私はこの世界に身を置くものとして信じていますので、やはり美郷町の魅力は人だと思います。

美郷町の魅力を更に磨いていくために

佐々木大使

秋田県全体を見て、もっと色んな動きを皆さんにしてもらうことが必要なのではないかということを感じています。色んな意味でアクティブに、積極的に、たとえば行政というのはそういうアクティブな活動をサポートするように、世の中が変わってきているのではないか。行政がやるからみんなやるというのは一時代前の話であって、まず住民の方が色んなことをおやりになり、行政がその中で賛同できるもの、あるいは必要性の高いものを応援していくというのが、今の基本原則でないかと思います。

そして、日本全体としてみますと、非常に自治体の運営というのは難しくなってきていて、どこもそんなにのんびりと行政をやっていられる場所は無くなってきていると思います。新しい問題はどん

永田　萠 大使

町田 睿 大使

どん出てきていますので、そうしますと、昔はこういう問題をやればよかったということであったのが、そうじゃない新しい問題が出てくるということに変わってきています。その意味では常に意識を変えていく努力をして、町の行政と一種の共同経営の意識を持つ人たちがどんどん年齢を問わず出てこないといけないという状況に、どの自治体も置かれているように私には見えるわけです。

美郷町を本当に素晴らしい町にするためには、もっとやらなければいけないことが無いかと言えば、決してそんなことはないだろうと思います。それは昔は政策にして予算にしてという話になったのだと思いますけど、予算というものは、減るということはあっても増えるという話はほとんど無いという塩梅になってきています。じゃあどうしますか、という話が直ちに出てくるわけでが、それにも関わらず町を維持していくためには、色々な組織を磨き上げるということが必要です。その組織を磨くことを可能にするのはそれぞれの市民、町民の意識の問題がやはり大事だろうと思っています。

町田大使

私が一つだけ提案させていただきますと、これから美郷町は「グリーンツーリズム」に取り組んでみてはどうでしょうか。美郷町は緑豊かな自然、そしてこのおっとりした人間集団といった評価が高いわけですが、こういうところに外の人たち、ギスギスした社会生活の中で、疲れを癒やす、そして植物が育っていく生育の楽しみをエンジョイする。そういう自然の中での生活をさせてみるということも非常に、都会人にとっては魅力に感じることです。

これは一つの観光の在り方で、地域興しの一つではありますが、私はこういう風な効果の他に、むしろ外から自分たちの町を見直してみる。という意味で非常に意味のある、自分たちがどんないいものを持っているのかということが、むしろ外との交流の中で自覚できるのではないかと思っていて、自分たちの郷土に対して愛おしさ、郷土愛みたいなものも湧いてくるのかなと、そんな風に思っています。

今後を担う若者に期待すること

町田大使

やはり若者の力というのは、失敗が財産だろうと思います。失敗してもまた立ち上がってチャレンジする、そういう若者の特典といいますか、強味があるので。若者を鍛えるにはどうしたらいいのか、それは重い課題を背負わせることだと思います。ですから彼らに、まちづくりならまちづくりのテーマを担ってもらって、それを我々年上が応援していくという風なことではないか、挑戦する気概をもたせるには、重いテーマだと、こういう風に思っています。

佐々木大使

今、町田大使がおっしゃったことその通りでございまして、問題は重いテーマを背負わせられると逃げまくる人をどうするかというのが、次の問題です。受け止めて頑張ってくれる若者がたくさんいるということであれば大変結構なのですが、まずは若者をいい意味で大切にするということを、同時に上の世代も考えていくということです。

佐々木 毅 大使

私は教育の世界で長くやってきましたけれども、奇跡的に伸びる若者というのはたくさんいるんですね。だいたい50歳くらいになると、そういう奇跡的な伸びをする人はいなくなるのですが、20代、30代の前半くらいまでは、ものすごい伸びをする人はいます。全員がそうだという話ではないですし、一人ひとりいろいろな運命を抱えていますので、簡単なことは言えませんけれども、若者に期待する社会の雰囲気や環境がどのように醸成されかということについては皆さま方の工夫次第です。

永田大使

私も全国色々なところで仕事をしていますので、過疎の町に行くことが多いんです。意外と若者が多いんですね、理由はただ一つです。町田大使がおっしゃった重い課題、この家をどうやって守っていくんだ、墓をどうするんだ、そこで生まれた若者としての自覚と、ここで頑張ろうという想いがある若者と良く出会います。でもその絶対条件は仕事があるということです。

とにかく若者、今ここで育った若者をよそにいかせない。そしてよその若者を取り込む。そしてカップルになっていただく。この方法はまだまだみつかるんじゃないかと思います。

問い合わせ 町総務課 秘書広報班 ☎0187(84)1111